



みなさん、こんにちは。人権・和教育部です。

今学期も6月13日（水）のHRで、1・2年生は人権に関わる授業を行いました。その内容を振り返ってみようと思います。（3年生は2学期に実施します。）

「大切なものは」1年生

授業後の感想

◎色々な意見をもつ人がいて、同じ考えの人の方が少ないことが分かりました。僕の付けた順位は、時間が経っても大きくは変わらないと思います。中学の頃も同じでした。人の考えは簡単には変わらないと思いました。みんながそうだと思うので、自分とは違う価値観の人も尊重したいと思います。

◎今日考えた順位は、何年か後には変わっていると思います。進学や就職をして、たくさんの経験をすれば変わると思います。だから、色々な意見を大切にしたいと思います。

◎自分一人で考えられる世界には限りがあり、人と伝え合うことで広がりや深まりが出るので、会話は大切だと思いました。意見をまとめるのは大変で難しかったです。その中で印象に残っているのは「平等なチャンスがないと快適な生活も友情も作れない」ということです。一人一人の考え方が違うことを生かして、色々な意見を出し合うことで、地球上にたくさんの会話が広がり、そうして人と人とが繋がっていくといいなと思いました。

◎意見交換をするのは楽しいなと思いました。人の話を聞いて共感することもありましたが、疑問に思うこともありました。人の言葉に耳を傾けることも大切ですが、自分の意見を言うことも大切だと思いました。

◎今回は「人の意見を否定しない」というルールがありました。安心して自分の意見を言えたし、色々な意見を聞くこともできたので、それはそれで良かったです。でも、否定と肯定で意見がはっきりと分かれることもあると思います。反対意見が出せる話し合いは、有意義なものになりそうなので、反対意見ありでも、お互いを尊重して、傷つけ合うことがないようなクラスを作りたいと思いました。

今回の授業では、「自由」「健康」「友情」などの10項目の中から、自分が大切だと思う順に順位を付け、他の人の意見も聞いて、グループで話し合うというものでした。感想で最も多かった言葉が、「（色々な意見を聞くことができて）楽しかった。」でした。意見を言う人も聞く人も、本当に楽しそうだったことが印象に残っています。また、「普段はあまり話をしない人とも話せた。」「よく知っている友達の違いを知った。」というものもありました。クラスメイトとの仲も深まったのではないのでしょうか。感想にもありましたが、高校を卒業して進学や就職をすると、異なる年代の人や国の人と出会う機会も多くなるかもしれません。そのような時に、今回の授業での気づきを生かしてほしいと思います。多様性を受け入れて尊重し合うための、最初の一步は、まず耳を傾けること、その上で、お互いの特性や個性を存分に発揮できる雰囲気を作ることが大切なのかもしれません。



「お互いに気持ちのよい学校生活を送るために」2年生

授業後の感想

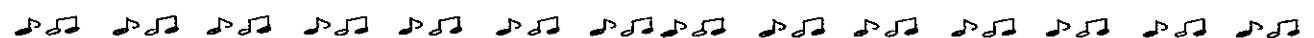
◎グループになって、「陰口」の逆の「陰ほめ」をしました。褒め続けるなんてしたことがないので、戸惑いましたが、楽しかったです。「陰口」より、ずっといいです。何だか雰囲気も良くなりました。また、自分も褒めてもらいましたが、普段の生活で褒められることは少ないので、すごく恥ずかしい気持ちがありました。でも、悪くはなかったです。口には出さなくても、相手の良いところを見つけるようにしたいと思いました。

◎自分では悪口を言っているつもりはなくても、人を傷付けていることがあるんだろうなと思いました。相手のことを考えた言動をしようと思いました。特に仲の良い友達には、あまり考えずに話しているので、実は傷付けているのかもしれないと思いました。コミュニケーションを、しっかりととることは大切だと思いました。

◎部活の時に、仲間のことを考えて自分から動くことを第一にしていますが、それは他の時も同じなんだなと思いました。全体の雰囲気を良くするために、自分がすべきことを考えようと思います。

◎自分がイライラしたりムシャクシャすると、人を傷付けやすくなるので、まずは自分の心を落ち着かせようと思いました。仲が良いと、軽い気持ちで「死ね」「うざい」などと言ってしまうが、気を付けようと思いました。

◎自分を振り返ったら、人を傷付けたかもしれないと思うことがありました。悪気はなかったけど、嫌な気持ちにさせたかもしれません。いつも気を付けたらいいと思うけど、難しいです。でも、相手を尊重して認め合うことは大切です。みんなが楽しく生活できるように心がけたいです。



今回の授業は、昨年度の本校の学校生活アンケートに書かれた「不快な言動、人を傷付けるような言動」について知り、改めて学校生活を振り返ってみるものでした。暴言や無視、またはクスクスと笑うことやSNSなどへの誹謗中傷の書き込みなどの具体的な事例について、その背景にあるものを考えました。悪口を言うよりも相手を認めた言動の方が、自分も相手も温かい心になることを、実際に体験したクラスもありました。故意に人を不快にさせてはいけなことは明白です。しかし、感想にもありましたが、何が人を傷付けるのか分からない部分もあります。そもそも「一度も人を傷付けたことがない人」は、存在するのでしょうか。自分が被害者にも加害者にもなる可能性を忘れずに、自分の言動を振り返る時間をもつことが大切ではないのでしょうか。部活動を頑張る人が多い大社高校では、それができるはず。部活動だけではなく、球技大会や学園祭などを通して、仲間とのコミュニケーションをしっかりとって、お互いに気持ちのよい学校生活を送るようにしましょう。



今年の「学校生活に関するアンケート」の結果ですが、「学校生活で差別的言動や不快に感じる言葉を聞く場面に出会ったことがあるか」という問いに対して、「ある」という回答が7件ありました。つらい思いをしている人がいるのは、悲しいことです。「全員笑顔の大社高校」を目指して、みんなで頑張りましょう。

（文責：福田）